

30周年記念シリーズ講演

「事業成功へのプロローグ」

30周年記念講演 講師 福島正伸(ふくしま まさのぶ)氏について
(株式会社アントレプレナーセンター 代表取締役社長)

「眠たくならないのは福島先生だけ!」、「わざわざ九州、四国からも通う人がいる!」、「必ず元気になって帰れる!」、「究極だっ!」という島根起業家スクール講師としての前評判以上の講演を誰もが目の当たりにしました。会が目指す「ビジネスの成功に特化した会」にしたいという会員アンケート結果に基づいた講師として、また、異業種である青年中央会のどの企業にとっても参考になる講師として、さらに、経営者のみならずサラリーマン、従業員にとっても参考になる講師として存分にその威力を発揮して頂いた福島先生の紹介です。ぜひ、アントレプレナーセンターのホームページ、著書を参考にされる事をお勧めいたします。今後の30周年シリーズ講演にもご期待ください!!

30周年記念講演会委員会副委員長 高橋正浩

- 主な実績
- 通産省産業構造審議会委員
- 通産省アントレプレナーシップ涵養事業実行委員会座長代理
- 通産省VEC「景気後退局面におけるベンチャー企業の在り方研究会」委員
- 通産省VEC「若手ベンチャービジネス育成小委員会」委員
- 労働省「ベンチャー企業支援懇親会」委員
- 国土庁「地方新規事業調査委員会」委員
- 神奈川県「企業家支援システム事業家調査委員会」委員
- 神奈川県「コンサルティングシステム研究会」委員
- 岐阜県「インキュベーター事業家調査研究会」委員
- 東京商工会議所「創業ベンチャー企業支援に関する専門委員会」委員
- 労働省・東京商工会議所・岩手県・山形県・名古屋市・愛媛県・熊本県・鹿児島県・
- 島根県等、「起業家セミナー」主任講師
- 通産省日本新事業支援機関協議会(JA NBO)JA NBOフェローメンバー
- 「国際青年起業家総会」企画委員長
- 社団法人ニュービジネス協議会「第一回ニュービジネス大賞人材育成賞」受賞
- 日経ベンチャー 94ベンチャーオブザイヤー「若手企業家部門」受賞
- アントレプレナー大学創設

- 1958年 7月28日生まれ
- 1982年 3月 早稲田大学法学部卒業
- 1982年 4月 株式会社ビジネスコンサル タント入社 同月 退社
- 1984年 7月 株式会社ビーボード設立、代表取締役就任
- 1985年 4月 青年起業家協会設立、会長就任
- 1988年 3月 株式会社就職予備校設立 (現、アントレプレナーセンター)代表取締役就任
- 1989年 11月 日本青年起業家協会会長就任
- 現在 日本青年起業家協会相談役創業支援協会顧問 アントレプレナーセンター http://www.entre.co.jp

- 著書
- 『会社の元気はメンターがつくる』 ダイアモンド社
- 『従来の上司と部下の関係をリセットし、より活力のある関係をつくるための本。』
- 『起業家精神』不可能を可能にするバイブル ダイアモンド社
- 『一目でわかる 会社と業界就職地図』 日本実業出版社
- 『就職完全パワーブック』 明日香出版社
- 『何もないから成功するんだ』
- ゼロから1兆円を生む起業家の条件 きんざい(金融財政調査会)
- 『起業家』とは他人のために自分自身と闘うことのできる人...
- 『起業家に必要なたった一つの行動原則』 ダイアモンド社
- 『アントレプレナーになろう』 ダイアモンド社
- 悩んだ時はここに還れ!必ずやる気になれる起業家のためのバイブル。
- 『起業学』事業はシンプルに考えよう 風人社

『世界一になる』
...と決めると、すべての発想と行動が世界一を前提としたものになって、いつかほんとうに世界一になってしまうことがある。

30周年記念シリーズ講演について

きっかけは、島根県の産業振興財団の方よりこれから起業する人の為の講演会があるけど、きてみないかという話からでした。私は、自分自身起業して間もなく、会社というよりも自営業という形態で、私自身、仕事で走り回っていました。しかし、仕事量も増え、私一人では仕事をこなせなくなっていました。小さな会社ですが社員を増やし会社として、また、社長としての業務もやらなければいけなくなりました。しかし、私には会社の経営者としての知識、ノウハウはまったくなかったのです。会社が成長したのは、今から思えば本当に『ラッキー』であり、よくあんな経営でやれたなと思います(今でも思うんですが)、そこで、会社経営を一から勉強しなくては、と思い二週間に一度松江に通い始めました。鳥取から来られたのですかすごいですねえと言われましたが、なんと四国や岡山からも来ているではありませんか、起業したいという志を持った人たちは『思い』もすごい。福島先生の言葉は『夢しか実現しない』でした。『夢』ってなんだろう最初は分かりませんでした。企業家スクール四年目にしてほんの少し分

かってきました...夢がないと何事も実現しないということ。スクールでは、実際に事業計画を作るのですが、すでに起業している私には事業計画すらない、また造れといわれても、起業してない方たちの方がすばらしい考えを持っているのです。事業計画ひとつまともに作れなくて経営者としては失格。そんな思いが、私を自分自身の事業計画を作り直そう、経営者として事業を見つめ直すことの重要性を教えていただきました。福島先生のお話を聞くといつも元気になります。いろいろ悩んでいたものが問題解決へ前向きな姿勢になります。島根起業家スクールも通いつつで四年目です。私は、起業家スクールのある限り通い続けようと考えております。なぜなら、私自身の起業家としての終わりはないからです。ようやく青年中央会での講演会、私の夢がかないました。鳥取県東部中小企業青年中央会の皆様の、今後の経営者、企業家としての糧としていただければ幸いです。会のメンバーが相互にメンターとなりながら夢を語る、そんな青年中央会が、私の新しい夢です。

鳥取市政に対する要望についての回答

(全回答の中より抜粋して掲載しています)

- 要望** 地産地消の発信基地としての特産品の販売をしてみてもいいか?
- 回答** 特産品の販売は現在スペースの確保が困難ですが、新鳥取市の地域情報を発信する情報コーナーを設けることを検討しています。
- 要望** 温泉地鳥取を強烈にアピールすべきでないか。
- 回答** 鳥取温泉については、既存の温泉旅館や温泉公衆浴場などの情報発信を観光コンベンション協会の重要な事業として位置付け、積極的にPRを展開していきたい。また、まち中にある温泉という特徴を生かし、温泉をまちづくりの重要な要素の一つと捉え、城下町鳥取の再生や鳥取独自の食文化などと関連付けながら、まち全体の魅力を高めるための取り組みを展開していきたい。現在、具体的な取り組みとして、駅前の足湯整備について検討を進めている。
- 要望** 公共道路の必要性の検討。無駄をなくす対策を。
- 回答** 現在、公共道路の改良・新設事業につきましても、地元及び市民の方からの要望・提案等をもとにして、その中から緊急性、重要度、必要性等を確認しながら計画・事業化し、各関係部署、機関と連絡調整をとりながら進めています。

例会報告 7月例会平成16年度通常総会

平成16年7月15日(木)30周年記念式典が行われました。コーディネート委員会委員長 安木 彰規
コーディネート委員会委員長 安木 彰規
平成16年7月15日(木)30周年記念式典が行われました。コーディネート委員会委員長として初めての担当がこの式典の前の7月通常総会でした。時間的には短いものでしたが総会終了後に行われる記念式典と会場が違っていたため会員の移動など細心の注意を払いました。また、式典には来賓、OBの方々が多数出席され何ヶ月も前から準備をされてきた勝原30周年記念式典実行委員長また実行委員の皆様足を引っ張らないようにと委員会全員が気合を入れて臨みました。おかげさまで総会も滞りなく終了しその後の式典会場への誘導、来賓OBの方々の御見送りまで終わり胸を撫で下ろしました。これもすべて皆様の協力があればこそと感謝の気持ちでいっぱいでした。本当にありがとうございました。

デスクネット講習会 コーディネート委員会副委員長 川口 孝治
去る7月27日(火) 7月特別例会として東部青年中央会内の情報共有をより効率的に実践していく為の『デスクネット講習会』が県民文化会館第一会議室で行われました。講師には株式会社ケイズの三島氏をお招きし、デスクネットの概要説明を導入事例を交えて分かり易く説明して頂きました。ほとんどの会員の皆様がデスクネットに触れたこともなかったと思いますが、質疑応答も活発に行われ少しずつでもその中身を理解して頂けたのではないのでしょうか。これから本格的にデスクネットを運用していく確かな手応えを感じることのできた有意義な講習会であったと思います。平成17年1月からのデスクネット本格運用を目指して、今後は各委員会単位での講習会を実施していく予定です。各委員会のデスクネット担当を始め会員皆様のご協力をお願い申し上げます。

鳥取県中小企業青年中央会16年度通常総会を終えて

県出向理事 西根 伸吾

平成16年7月23日(金)ホテルサンルート米子にて行われました鳥取県青年中央会通常総会は大変お疲れ様でした。今年は東部から県会長に平野裕章氏が選出され、『平野県会長を盛り上げよう!』をテーマに過去最高動員数の!約50名の方にご出席頂き大変感動致しました。平野県会長の今年のテーマ『飛翔』サブテーマに『優勝劣敗は世の常』について県会長挨拶も滞りなく終わり、その後の記念講演に東亜青果(株)代表取締役社長 秦野一憲氏をお招きし経営についてとても勉強になりました。懇親会ではイントロケイズ等もあり大変盛り上がりました。2次会も東部・中部・西部会員が交流でき鳥取県青年中央会が一つになりつつあると実感できました。帰りのバスの中でも各会員が順番に『青年中央会への思い』を面白おかしくスピーチしたりもしました。出席できなかった会員の方も青年中央会の違った楽しさを次回は体験して頂きたいと思います。

I	N	F	O	R	M	A	T	I	O	N	
スケジュール			OB会より助成金			新入会員紹介			ご結婚おめでとう		
10月例会 10/15 事業アイズ'07の創造 担当:CI委員会 県経営研修会..... 10/29			昨年度に引き続き、本年度もOB会より、この東部中小企業青年中央会に、30万円の助成金を頂戴いたしました。誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。			●大倉 弘一 スナックザガニ/情報委員会 ●寺垣 裕子 ラウンジ一海/情報委員会 ●大谷 宏行 株式会社イオン/情報委員会 ●西尾 順成 株式会社サンアイ/ドリームグート委員会 ●平尾 博平 有限会社パールオフィス/ドリームグート委員会 ●木下 修司 有限会社メイトフレンドキ/コーディネート委員会 ●森下 透 有限会社高下精工所/ナレッジマネージメント委員会			●星 宗治 7月11日		
11月例会 11/12 事業の理想化... 担当:ドリームグート委員会									●西尾 俊一 9月3日		
12月例会 12/9 青年中央会が『i』戦略の実行 担当:情報委員会									「まつ道家」		

No.133 2004年10月発行



鳥取県東部中小企業青年中央会
◆会報

時代に挑み、次代を創る。



鳥取県東部中小企業青年中央会

綱領

一、われわれは自己の研鑽につとめ、英知を養う。
一、われわれは社会に奉仕し、お互いの友愛を深める。
一、われわれは団結して中小企業の発展を図る。

◆発行人 岡本 安量(平成16年度・会長)

◆編集責任者 平井 義一(情報委員会委員長)

◆編集委員会 情報委員会

URL: www.tsc21.gr.jp E-mail: tsc@tsc21.gr.jp

平成16年度テーマ『挑戦』{challenge}全員参加で完全燃焼!

30th T.S.C 東部青年中央会。進化し続ける



会長 岡本 安量 YASUKAZU OKAMOTO

新しい年度が始まって、あっという間に3ヶ月が過ぎました。今年度は30周年と言う事で、大きな事業『30周年記念式典』から始まり、『親子ふれあい24時間SP』そして、『30周年記念シリーズ講演』と進めてきました。いきなりの30周年記念式典は3ヶ月もたつのに、数日前の事のように記憶に残ってます。これは皆さんと同じではないでしょうか。一年前(瀧本年度)から準備して来た事を確実に、大きな実績として足跡を残してきていきたいと思います。30周年記念式典は皆の“気持ち”と“力”が一つになって大成功で終えました。これは大きな成果であり一つの事を皆でやり遂げた感動を、実感して頂いたと思います。続いて8月例会であります。親子ふれあい24時間SPも皆のアイデアと行動で大きな成果が見られました。第4回目というのもありましてマニュアル的にも確立されてきつつあります。ヘリコプターの搭乗体験、巨大流しそうめん、があれほどの評判になるとは、と、少し予想外のところもあり、戸惑いもありましたがイベントとしては大成功です。大道芸の猿まわしも大好評ですが、手放して喜んではいられません。やはり何かにつけて問題点は、出てくるもの

で反省、改善、材料として受け止め次年度に向けて取り組みないとけません。一つ今回の大きな収穫は平井副知事に出席して頂いた事!これは親子ふれあい24時間を立上げた時からのテーマでありまして会場がこどもの国である事、もあり“官民一体のイベント”に進めて行く大きな一歩になったのではないかと考えます。そして、9月例会から始まった30周年シリーズ講演「事業成功へのプロローグ」も第一回目なので結果はわかりませんが一人ひとりが必ず得るものがあります。本年度のテーマ“挑戦”は会として、これからの青年中央会を見据えて築いていく、のめありますが、個人の挑戦(チャレンジ)が大きな要素であります。その結果が青年中央会の成長につながると思います。このシリーズ講演は大きなきっかけになるでしょう。“全員参加で完全燃焼”もこの3ヶ月で感動と達成感を実感できたと思います。これから積極的に参加で感動を覚え完全燃焼していただきたいです。少しずつですが青年中央会ブランドを確実に構築されています!

時空を越えて

県会長 平野 裕章 HIROAKI HIRANO

県会長を拝命してから早いものでもう3ヶ月が経ちました。あの暑かった夏が嘘のように涼しくなり、秋を眼でも楽しめる季節になりました。3ヶ月を早いか遅いかは異論のあるところですが、同じ期間なのに何も出来ないまま過ぎるときも、充実したと感じるときもあります。何かの本で読みましたが、歴史の中で偉人と呼ばれた人達は普通の人より時間の進みが遅かったから偉大な仕事のできたのだ。元巨人軍の川上監督は現役時代、好調なときはボールが止まって見えた、だからヒットが沢山打てた。レオナルド・ダ・ビンチは一生の間に絵画から建築、武器、飛行機、化学とありとあらゆるものに第一級品の功績を残した。多分、私が思うに天才と呼ばれるに値する人達は何倍も時の経つのが遅いのではないのでしょうか。天才にはなれませんが凡人が真似出来るとするならば、準備万端整えることでしょうか。今期まだ始まったばかりですが、時空を越えたり多き年度にしたいと思っております。CI事業、情報の共有化、県の30周年の準備等々やることは目白押しですが、皆様の協力、支援なしにはできませんのでよろしくお願致します。

県CI事業について

県出向理事 牧浦 康寛 YASUHIRO MAKIURA

昨年、鳥取県中小企業青年中央会は東部・中部・西部が一丸となり、新しい会の行動指針を見つけて出すことに取組み、キャッチフレーズ「時代に挑み、次代を創る。」を県全体で創り上げました。今年度はこの新しい会の行動指針のもと、東部・中部・西部の各地区が独自の特色を出した具体的な行動をします。最終的に年間を通して活動してきた成果を報告し合い、内容、情報を共有化できればと考えています。私たち東部中小企業青年中央会は「TSCの4つの挑戦」を具体的に進めていきたいと思っております。すでに動き出している部分もありますが、ご協力宜しくお願い致します。また、鳥取県中小企業青年中央会は来年30周年を迎え、周年記念事業においてもCIを事業に入れ成功につなげたいと思っておりますので、あわせてご協力お願い致します。

TSCの4つの挑戦

PR(パーソナル・アイデンティティ)を確立する
-勉強会・交流会等を通じ、「人脈づくり」や「スキルアップ」を図る-

青年中央会ブランドを構築する
-ブランドを確立し、ステークスの向上を図る-

ビジネスに特化した会を創る
-ビジネスチャンスやビジネスパートナーを発見する-

魅力ある青年中央会を創る
-例会、委員会活動の充実を図る-



30周年記念式典

平成16年7月15日(木)
ホテルニューオータニ鳥取 鶴の間



30周年記念式典
実行委員長(副会長)
勝原 章
AKIRA KATSUHARA

30周年記念式典を終えて

30周年記念式典の際は、実行委員長という大役をさせていただきましました。いろいろと不手際もありましたが、ご来賓で出席して頂いた県内の政界、財界の方々、そして今までお世話になった多くの方々へ温かく祝福され、無事に式典を終えることが出来ました。失敗の許されない110年に1度の大きな行事ということでプレッシャーもありましたが、実行委員の一致団結、そして役員や会員の協力のおかげで準備も順調に進み、式典当日を迎えることができました。特にOBの方々の助言や協力がとても印象に残り大変有難かったです。

この式典を終え今振り返ると、準備段階で多くの方々とお話しさせていただいたことにより、この鳥取県東部中小企業青年中央会の歴史の重さ、地域社会に対する存在価値を自覚することができました。またこれからの会のビジョンや方向性の重要性、そして多くの皆様の今後の会に対する熱い想いや期待感をあらためて認識させていただくことができました。最後になりましたが、私自身本当に良い経験をさせていただきましたし式典を開催するにあたりお世話になった多くの皆様方に心より感謝し締めくりたいと思います。本当にありがとうございました。

第4回

親子ふれあい24時間スペシャル

子どもと過ごす24時間 子どもと遊ぶ24時間 子どもが遊ぶ24時間

日時 平成16年8月21日(土) 22日(日)
会場 鳥取県立鳥取砂丘こどもの国



アピール委員会委員長
鳥越 宣孝
NORITAKA TORIGOE

親子ふれあい24時間を終えて

皆さんこんばんわ。去る8月21日、22日と開催いたしました第4回親子ふれあい24時間スペシャルについて報告させていただきます。本年度 東部中小企業青年中央会は、30周年を迎えるにあたり、さまざまな記念事業の第2弾といたしましてこのイベントを開催いたしました。前年度アピール委員会よりさまざまな企画、検討をへてこの企画に決まったのですが、今回は30周年スペシャルという事で、対外的に青年中央会をアピールし、イベント盛りだくさんの親子ふれあい24時間となりました。岡本新年度より幾度となく委員会開催し、準備を重ねていざ当日を迎えたのですが、一番心配なのが、天候なのですが、私の日頃の善行のおかげか快天にめぐられました。いざ開会式が始まると予定どおりイベントが進むつもりが、なかなかさ

うはいきません。しかし会員皆様の協力により進行する事ができました。最初は人が来るかどうか不安でしたが、蓋をあけてみると、予想以上の来客数に大変感動しました。それを見た時にやってよかったという気持ちになりました。と同時にこれがイベントなんだと実感いたしました。今回は、対外的なイベントとして、会員の皆様には窮屈な面もあったかもしれませんが、皆様のたくさんの汗とたくさんの笑顔を見せていただき大変感謝しています。最後になりましたが、企業協賛いただきました皆様大変ありがとうございました。会員の皆様、ご協力大変ありがとうございました。



アピール委員会
担当副会長
高橋 勝美
KATSUMI TAKAHASHI

親子ふれあい24時間の成功に感謝

皆さま、8月21日、22日、2日間ご苦勞様でした。今年度、30周年にあたり、この「第4回親子ふれあい24時間30周年スペシャル版」を、昨年度那前アピール委員長を中心として企画し、今年度鳥越委員長をはじめ、アピール委員会のメンバーそして実行委員会の皆さまと運営してきました。30周年事業の一つとして取り組んだイベントとして、今年度は中央会のキャッチフレーズ「時代に挑み、次代を創る」も出来上り、岡本会長のもと、「挑戦」サブテーマ「全員参加で完全燃焼!」という通り、皆さんと新しい企画に挑戦し、2日間、全員参加で皆さんと完全燃焼できたと思います。

対外的にも、一般の参加者も多く、「鳥取県東部中小企業青年中央会」を充分アピールできた良いイベントだったと思います。これからも鳥取市民が、毎年楽しみにするような夏の「親子ふれあい24時間」をアピール委員会のメンバーと考えていきたいと思ひます。中央会の柱である綱領にあるように、皆さんと英和、友愛、団結をもつとして、中央会をガンバっていきましょう。皆さんの努力、力、汗がかならず中央会を大きくしていきます。「第4回親子ふれあい24時間 30周年スペシャル版」皆さまのおかげです。大成功でした。ありがとうございました。